

37 ゴルフ競技

1 競技の特性

ゴルフは英国生まれの紳士のスポーツといわれ、マナーやルールを重んじ、木々の緑や、池などがある中を直線距離にして約6.5kmのコースで、ボールを18個のホールカップに沈める競技である。つまり、ホールカップにボールを決めるのに何打かかったかを競うのがゴルフである。

ゴルフにおける事故は、競技の特性上、硬く小さなボールを金属製のクラブで、相当の飛距離を正確に打ち出さなければならないことから、クラブをスイングする際に多くの事故が発生している。また、コースに出るからは、気温や天候など、外的な環境要因の影響を多分に受けることから、ゴルフ特有の事故も発生している。

2 事故・傷害の防止対策

(1) 施設・設備・用具

予想される事故・傷害の原因	傷害例	対策
<ul style="list-style-type: none"> 防球ネットの設備不備や破損。 クラブのグリップの破損と汚れ。 	<ul style="list-style-type: none"> 打撲、骨折、裂傷 打撲、骨折、裂傷 	<ul style="list-style-type: none"> 打者のレベルにかかわらず、打球は思わぬ方向に飛ぶものであることを想定し、他者を守るために適切な位置にネットを設置する。また、破損等がないか練習前に必ず点検すること。 安全ネットの位置や破損等の点検を生徒自身にも行わせ、安全に練習することの意識を植え付ける。 グリップの破損や汚れを含め、用具の点検を行い、必要に応じて部品の交換や更新を行う。 個人が使用するクラブの点検は各自で行う習慣を身につけさせる。 ゴルフグローブを使用させる。

(2) 活動内容

予想される事故・傷害の発生状況	傷害例	対策
<ul style="list-style-type: none"> 同一方向のスイングを長く繰り返すことで特定の筋肉や骨に負担がかかる。 疲労と水分不足によって起こる。 打者の前方に出て打球にあたる。 落雷に打たれて起こる。 近くに他者がいることに気がつかずスイングしてクラブで他者を叩く。 	<ul style="list-style-type: none"> 腰痛症、疲労骨折、腱鞘炎 熱中症 打撲、骨折、裂傷 感電(死) 打撲、骨折、裂傷 	<ul style="list-style-type: none"> 連続してのスイングを制限する。股、腹筋や背筋の強化を図る。逆スイングの素振りを行う。 練習前後のストレッチを必ず行う。 帽子を着用させる。また、スポーツ飲料等を携帯させる。 ラウンド前日は、十分に睡眠をとる。 各自の体調は、自分で管理・把握する。 ホールごとにこまめに水分補給をする。 打者の前方には決して出ないよう習慣づける。 斜め前方に飛び出すボール(シャンク等)があることを理解させるとともに、斜め前方も危険である。 夏期では、どこでも落雷の可能性があることから、雷雲が近づいている場合のラウンド中の生徒への警告方法や避難方法など、事前にゴルフ場側と打ち合わせをしておく。 クラブを持っている打者には、近づかないように習慣づける。また、打つ際に、「打ちます」と声をかける。

3 事故防止のためのチェックリスト

施設・設備・用具	防球ネットの破損がないか コース上のハザード（池・小川・バンカー）は安全か クラブのネックの破損、ひび割れがないか クラブのグリップの破損はないか
活動内容	体調の悪い選手、けがをしている選手はいないか 帽子等着装は正しいか 打者との一定の距離をとっているか ウォーミングアップ・クーリングダウンは十分か 水分補給は適切に取っているか
救急体制	緊急時の連絡体制は十分か R I C E 処置など、応急処置について理解・実践できるか 医薬品などは準備できているか 水や氷の準備はできているか